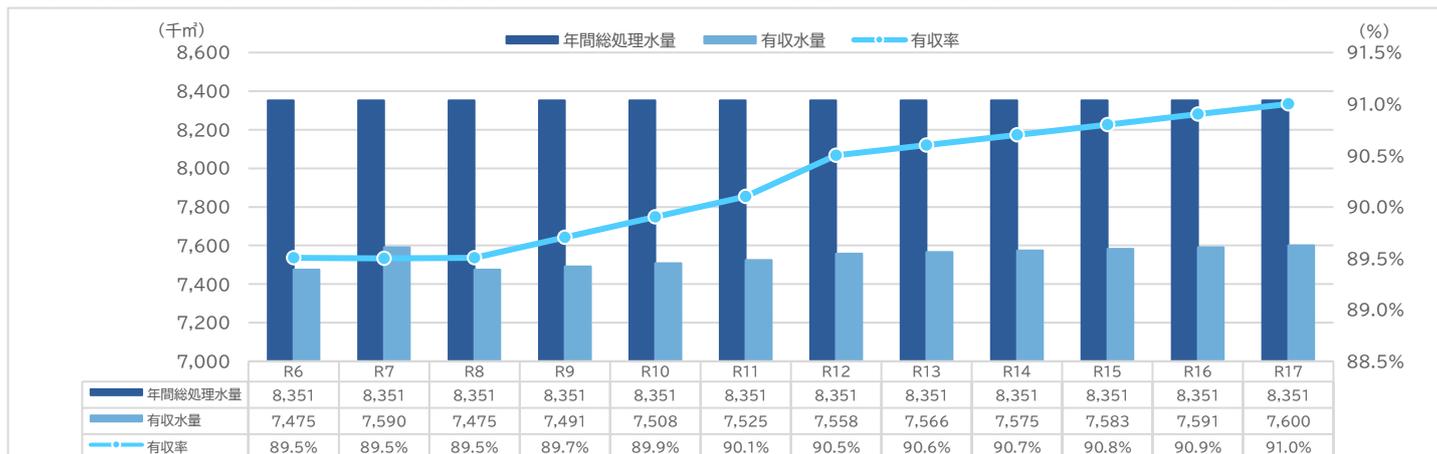


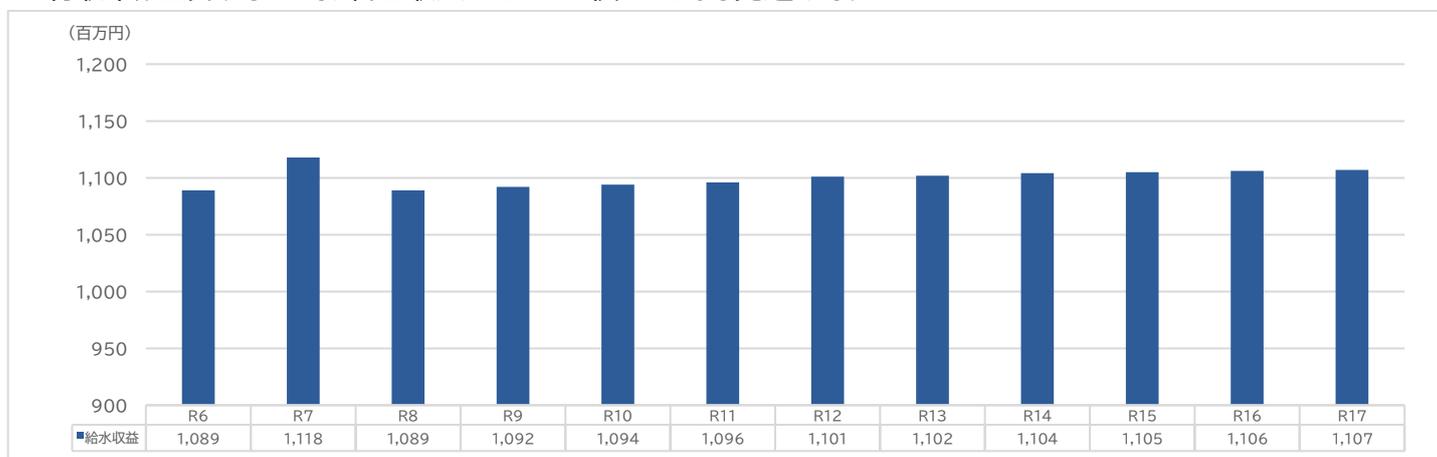
(2) 年間総処理水量および有収水量の見通し

総処理水量は横ばいで推移し、有収水量は緩やかに増加する見通しです。有収率についても上昇する見込みです。



(3) 料金収入の見通し

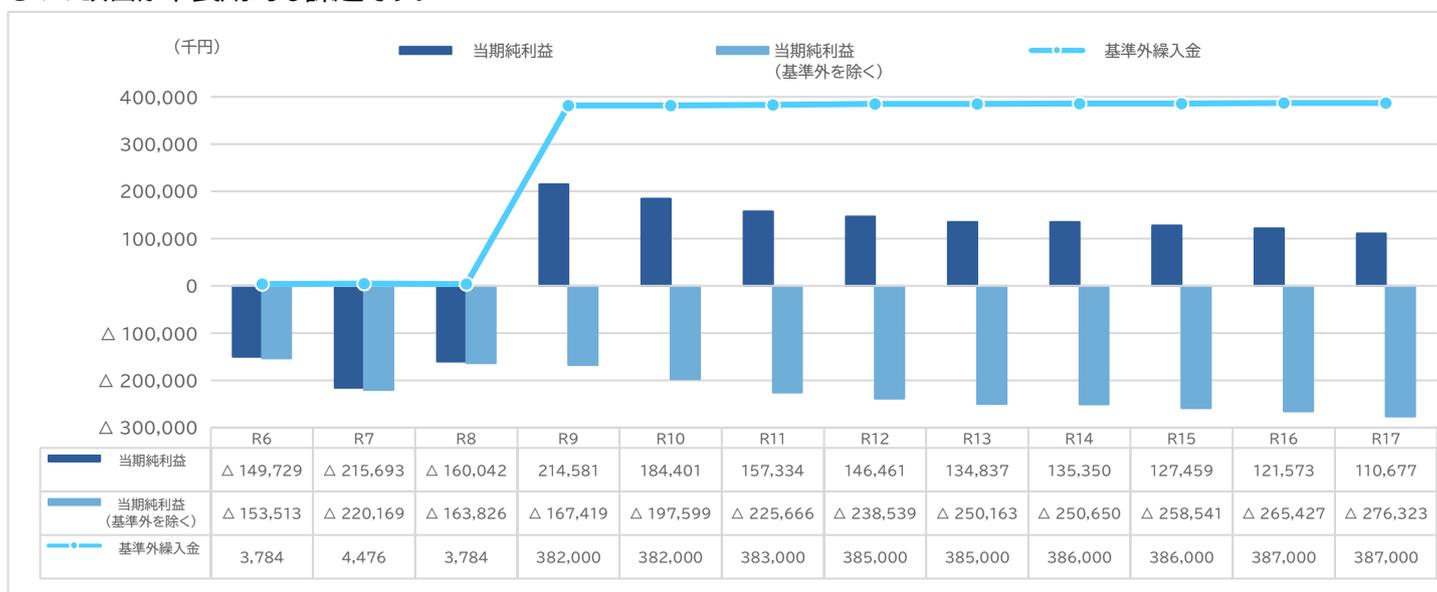
有収率が上昇することで、料金収入はおおむね横ばいとなる見込みです。



4 投資・財政計画

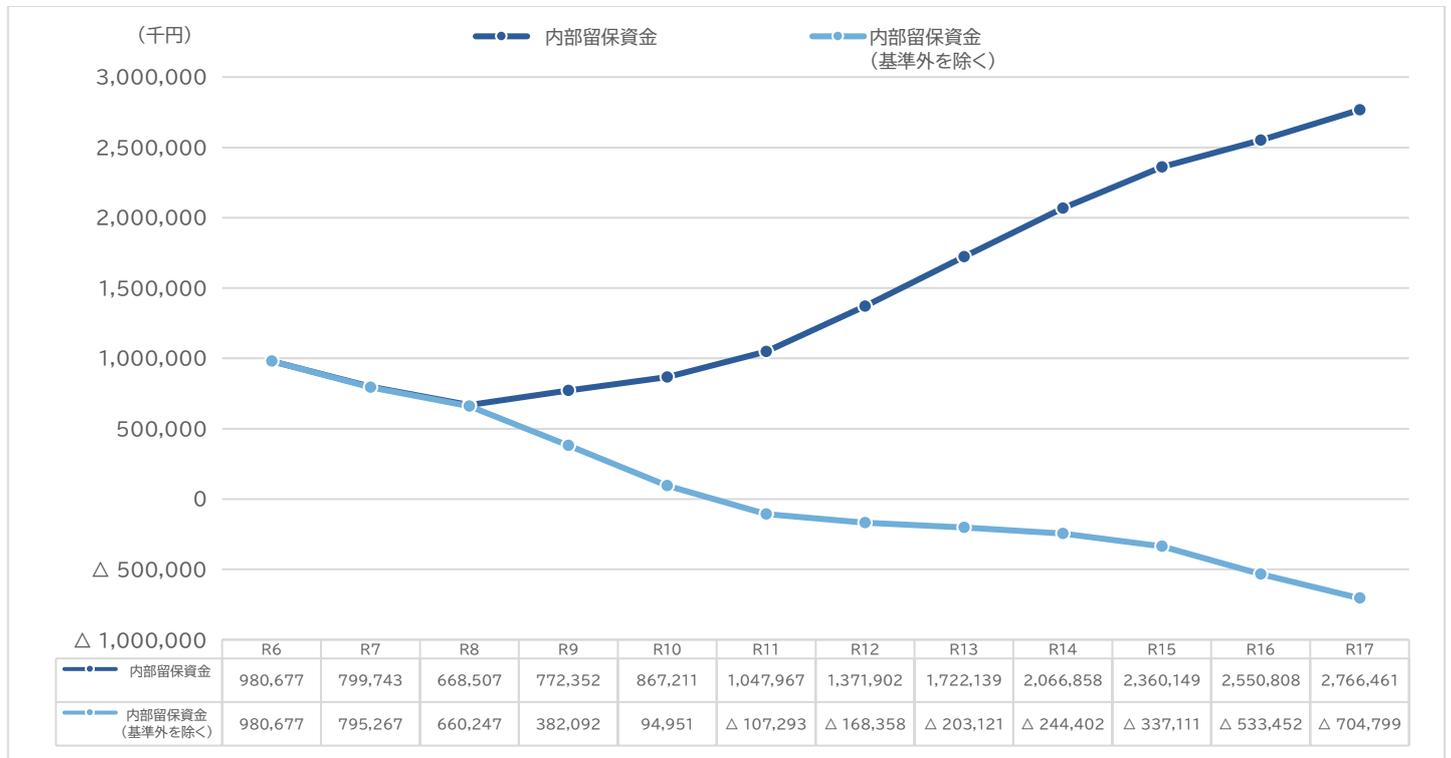
(1) 当期純利益、基準外繰入金

当期純利益は近年黒字を維持していますが、基準外繰入金を除いた当期純利益は一貫して赤字となっています。これは、表面的な黒字が料金収入等による自立的な経営成果ではなく、一般会計からの基準外繰入金によって支えられている状況を示しています。基準外繰入金は近年一定水準で推移しており、今後の継続性には不確実性があることから、収支構造そのものの改善が中長期的な課題です。



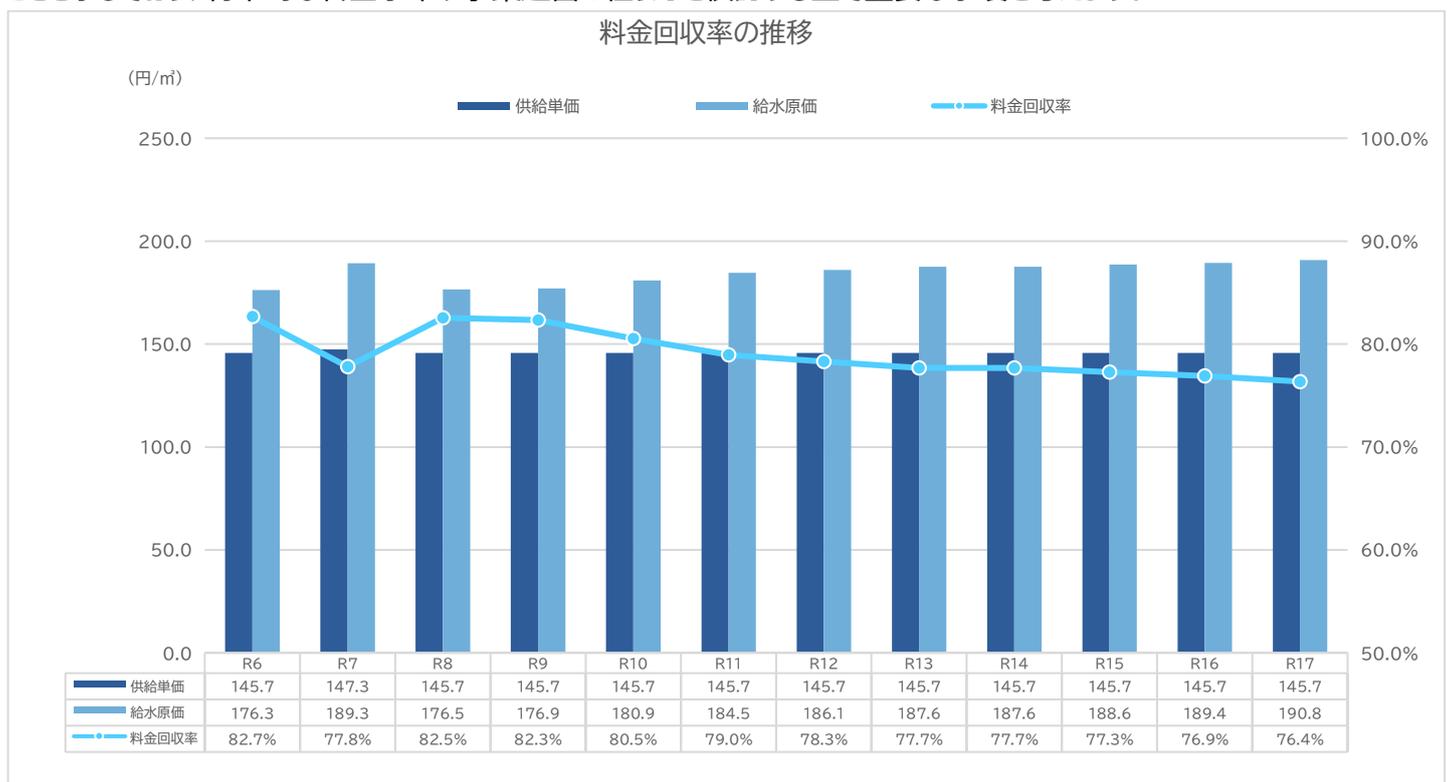
(2) 内部留保資金

内部留保資金は、過去の経営活動で蓄積された資金余力を表し、将来の更新投資や突発的な支出への備えとなる重要な指標です。総額では増加傾向にありますが、基準外繰入金を除いた内部留保資金を見ると、近年は減少し、マイナス幅が拡大しています。これは、内部留保の増加が料金収入等による自立的な蓄積ではなく、一般会計からの繰入に依存していることを示しています。将来の施設更新を見据えると、基準外繰入金に頼らない資金形成が課題です。



(3) 料金回収率

料金回収率は、給水に要した原価を料金収入でどの程度回収できているかを表す指標であり、100%未満の場合は、料金収入だけでは原価を賄っていないことを意味します。近年、給水原価は上昇傾向にある一方、供給単価はほぼ横ばいで推移しており、その結果、料金回収率は低下傾向にあります。これは、経営努力だけでは吸収しきれないコスト増が進行していることを示しており、将来的な料金水準や事業運営の在り方を検討する上で重要な示唆を与えます。



5 経営基盤の強化に向けた今後の取り組み

(1) 水道施設に関する事項

水源保全や水質管理、情報発信を一体的に進め、安全で良質な水道水の安定供給体制を構築します。また、施設の耐震化や災害時の関係機関との連携強化により、強靱な水道システムの整備を進めます。さらに、計画的な施設更新と早期補修による延命化を図るとともに、経営の効率化・健全化により、持続可能な事業基盤の強化に取り組みます。

(2) 水道料金の見直しに関する事項

資金および内部留保資金を確保するために、水道料金以外の一般会計繰入金（基準外繰入金を含む。）に依存している経営状況です。コスト削減や経営の効率化を図るとともに、下水道使用料改定を含めた資金確保対策を検討します。

また、令和 17 年度での料金回収率 100%以上を目指します。

(3) 住民からの理解に関する事項

本市の水道事業に関して住民理解が得られるように、市のホームページや広報紙等を活用し、予算、決算、経営状況分析等の情報を公開し、財政状況の透明化を図ります。

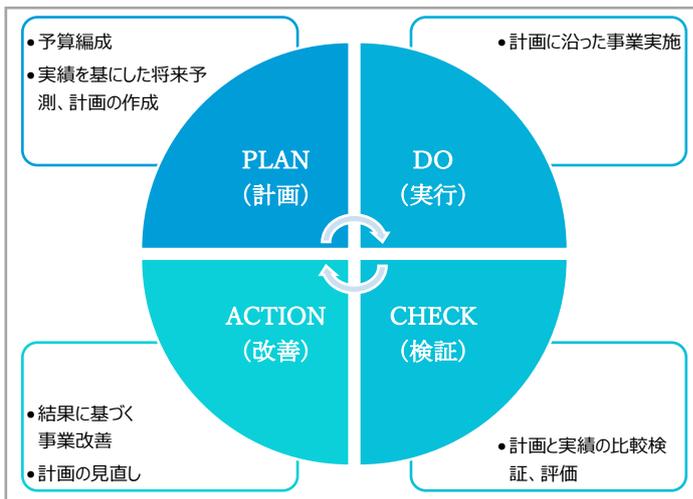
6 経営戦略の事後検証、改正等に関する事項

本経営戦略は令和 8 年度から令和 17 年度までの 10 年間の計画期間としております。

この期間中、毎年度の進捗管理を踏まえ、目標値と実績値の比較分析を確実に実施するために、PDCA サイクルに基づき、計画の策定（PLAN）、事業の実行（DO）、達成度の評価（CHECK）、改善（ACTION）を行い、フォローアップしていきます。

このうち達成度の評価および改善については、モニタリングおよびローリングにより実施します。

また、より質の高い経営戦略を目指し、計画期間の中間年度である令和 12 年度を目途に見直し・改定を行います。



7 経営改善に向けたロードマップ

R8 年度から R17 年度までの 10 年間に、実績検証や経営戦略の見直し、料金改定の検討などの取組をロードマップに沿って段階的に実施し、持続可能な事業運営を目指してまいります。

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
本経営戦略	→									
実績検証	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
経営戦略の見直し					●					●
アセットマネジメント計画					●					●
経営審議会	●					●				
料金改定の検討	●					●				